

『古事記』成立1300年記念

『佐紀盾列古墳群』

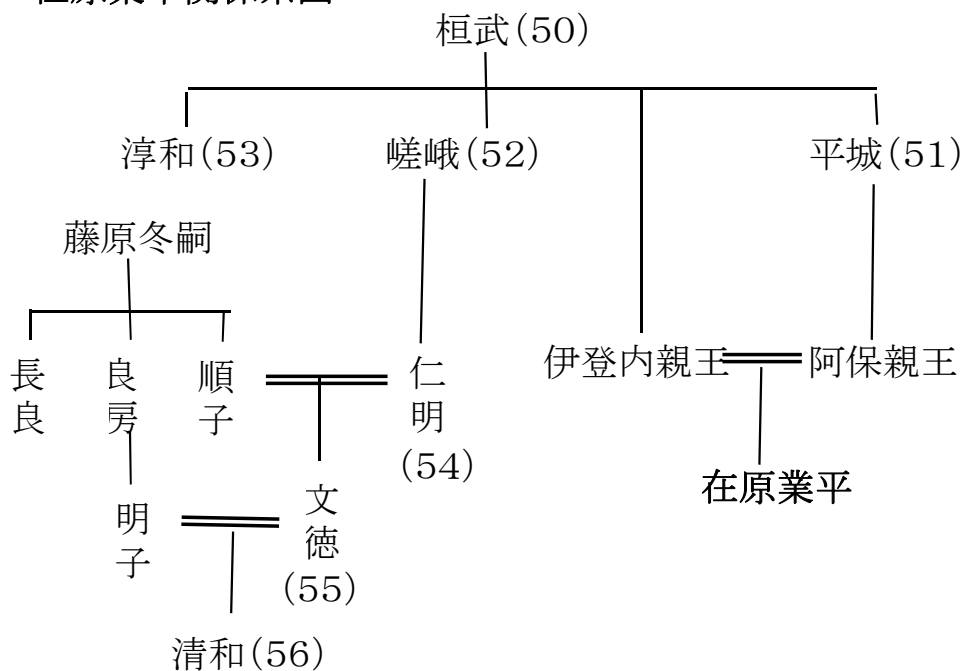
●予定コース

近鉄学園前駅(9:25)―近鉄西大寺駅(9:29)―バス西大寺駅(9:55)―
不退寺口駅(10:07)―不退寺(400円)―狭岡神社―大山守命墓―
ウワナベ古墳―コナベ古墳―仁徳天皇皇后磐之媛命平城坂上陵―葛木神社
―佐紀神社―山上八幡神社―垂仁天皇皇后日葉酢媛命陵―成務天皇陵
―仲哀天皇皇后神功皇后陵―近鉄平城駅(解散)
(約7km・午後4時30分ごろ解散予定)

●不退寺(業平寺) 金龍山 不退転法輪寺

真言律宗西大寺直末で、本尊は聖観音菩薩立像(国重文・業平観音)です。
『大和國金龍山不退寺縁起』によると、第51代平城天皇は大同4年(809)に
弟の嵯峨天皇に御譲位され、平城京の北東の地に萱葺きの御殿を造営、「萱
の御所」と呼称された。その後、第1皇子阿保親王とその第5子在原業平朝臣
が共に居住せられ、業平朝臣は承和12年(845)第54代仁明天皇の詔を奉り、
承和14年(847)平城天皇の旧居を精舎に改め、自ら聖観音像を刻まれ、父
阿保親王の菩提を弔うと共に衆生済度の為に「法輪を転じて退かず」と発願し、
金龍山不退転法輪寺と号して仁明天皇の勅願所となった。
略して不退寺、業平寺とも呼ばれる。

・ 在原業平関係系図



境内には室町初期建立の本堂、鎌倉末期の正和(しょうわ)6年(1317)建立墨書銘をもつ南門(切妻造の四脚門)、同じころ建立と推定される多宝塔など国重要文化財がある。木造聖観音立像、同五大明王像(ともに国重文)などの寺宝がある。

・在原業平

平安時代初期の貴族・歌人。平城天皇の孫。贈一品・阿保親王の五男。官位は従四位上・蔵人頭・右近衛権中将。六歌仙・三十六歌仙の一人。

薬子の变(810)によって嵯峨天皇と対立した祖父平城天皇が剃髪出家し、父阿保親王も太宰権帥に左遷されたため、阿保親王の子供たちは、すべて在原の姓を賜って臣籍に下った。しかし、廟堂においては圧倒的な勢力を握る藤原氏の風下にあることを余儀なくされ、業平もまた従四位上蔵人頭で終わることになる。

しかし、彼は眉目秀麗な美男子で、自由気儘な色好みで、しかも、人並みすぐれた歌才を持っていました。

また『伊勢物語』の主人公とみなされています。伊勢物語の内容は先ず125段からなる短編の集まりで、どの段も出だしの部分が「むかし男ありけり」で始まります。この「むかし男・・」の男は在原業平であるというのが定説になっています。

・『百人一首』・『古今和歌集』 在原業平歌碑

紅葉が流れている竜田川の情景の屏風絵をテーマに詠んだとされている。

「ちはやぶる 神代もきかず 竜田川 からくれないに 水くくるとは」

・『伊勢物語』第88段歌碑

「おほかたは 月をもめでじ これぞこの つもれば人の 老いとなるもの」

・古墳の石棺 砂岩製・縦長2.7m舟形割竹刳抜形式

境内中庭に5世紀の石棺が置かれている。不退寺西方に築造された平塚古墳から幕末に出土したもので、発見当初は蓋(亀の甲羅形)や副葬品があったらしい。一時、付近の藪の傍ら(本堂の後)に移す。近隣の農民が石棺を砥石の代わりにして鎌を研いだために、表面が窪んでいる。蓋は割って各自持ち帰ったという。その後、不退寺の境内へ石棺を移転したという。

昭和43年国道24号線バイパス工事事前発掘調査により、奈良時代の遺構の下から古墳を検出する。小字名をとって平塚古墳と名付けられた。

当古墳はJR関西線と国道24号線になり跡形もありません。

●狭岡神社

社伝によると、霊亀二年(716)、藤原不比等が国家鎮護し、藤原氏繁栄のために、自分の邸宅の「佐保殿」の丘に天神八座を祀ったといわれています。

祭神は若山咋之神・若年之神・若沙那比売神・弥豆麻岐之神・夏高津日之神・秋比売之神・久々年之神・久々紀若室葛根之神の八座。

いずれも『古事記』に記載されている。

- ・**若山咋の神 (ワカヤマクヒ)** 若い、山の境界の棒の意。
 「大山咋の神」に対する「若山咋の神」で、系譜上は伯父と甥の関係である。
 「山咋」は「山杙(くい)」で、山の境界をなす棒杙の神格化したもの。
- ・**若年之神** 若い年穀(稲)の意。
 「大年の神」に対する「若年の神」で、系譜上は祖父と孫の関係である。
 大年神の子の羽山戸(はやまと)神と 大気都比売の神 の間に生れた八神中の第二子。第一子の「若山咋の神」(田の神)の次に若い稲すなわち苗が生れることの表象。
- ・**若沙那比売神** 若い神稲に仕える巫女の意。
 大年神の子の羽山戸神と 大気都比売の神 の間に生れた八神中の第三子。
 「若年之神」(若い稲すなわち苗)の次に、それを採る田植女(「早乙女」)の表象。
- ・**夏高津日之神** 夏に高く照らす太陽の意。
 大年神の子の羽山戸神と 大気都比売の神 の間に生れた八神中の第五子。
 盛夏の強烈な日照りに恵まれて稲が生育することの表象。
- ・**秋比売之神** 稲の収穫の秋の季節の女性の意。
 大年神の子の羽山戸神と 大気都比売の神 の間に生れた八神中の第六子。
 稲を収穫する秋のおとずれを表象。
- ・**久々年之神** 茎立った稲の意
 稲の茎(稲莖)がしゃんと立っており、稲穂の豊穰の表象。
- ・**久々紀若室葛根之神** 材木を縄で結び固め、新嘗祭のために作った新室の意。
 「久々紀」は茎立つ木。建築材をいう。「若室」は新築の家。「葛根」は材木と材木とを結び固める縄である。
 この神名全体で、新嘗祭用の新室の神格化である。
- ・『古事記』**垂仁天皇の沙本毘売** 夫の天皇と兄の板挟みに翻弄された后
 垂仁天皇は沙本毘売を后とされた。沙本毘売の兄毘古が「夫である天皇と兄と、いずれが愛おしい」と尋ね、「兄を愛おしいと思う」と答えた。すると兄は「真にわたしを愛おしいと思っているのならば、二人で天下を治めよう」といって小刀を渡し、「眠っているところを刺し殺せ」と言った。
 天皇のすきを狙っていた。天皇は後の膝枕で昼寝をしていた。后は、小刀で天皇の首を刺そうとしたが、首を刺せず涙があふれ、天皇の顔に落ちた。
 天皇は驚き「わたしは、あやしい夢を見た」と后に尋ねた。后は隠しきれず、天皇に打ち明けた。天皇は、沙本毘売の討伐に向かい、沙本毘売は待ち構えた。こっそり抜け出した后は、兄のもとに入り込んだ。この時、沙本毘売は身籠っており、やがて御子を出産した。御子を天皇の下で育てるように伝えてきた。沙本毘売は天皇のもとへ戻らず、炎の中で死んだ。

・境内に狭穂姫(『紀』)伝承地の石碑と狭穂姫(『紀』)伝承の鏡池

- ・万葉集 593 笠女郎の歌碑 大伴宿禰家持に贈れる歌
「君に恋ひ 甚(いた)もすべ無み 奈良山の 小松がもとに 立ち嘆くかも」
(あなたが恋しくてどうにもしかたがないので、奈良山の小松のしたに立って泣いています)

笠郎女は奈良時代中期の歌人。生没年未詳。
大伴家持とかかわりのあった女性のひとりです。『万葉集』に計29首の歌が収載されて、いずれも大伴家持に贈った歌ですが悲恋のようです。

●大山守命墓 宮内庁管理

大山守皇子(『記』では大山守命・生年不明～応神天皇41年(310年?)は、『記紀』に伝えられる古墳時代の皇族(王族)。

応神天皇の皇子で、母は高城入姫命(品陀真若王の女)。

仁徳天皇・菟道稚郎子(『記』では宇遲能和紀郎子)の異母兄に当たる。

応神天皇40年、菟道稚郎子の立太子の際、山川林野の管掌を任されたが、兄である自らが皇太子になれなかったことを恨んでいた。応神天皇の崩御後、密かに皇位を奪おうと謀り、皇太子を殺害するために数百の兵を挙げた。

しかし、この謀は前もって大鷦鷯尊(おおさざきのみこと。後の仁徳天皇)と皇太子の察知するところとなり、菟道川(うじがわ)の渡河中に渡し守に扮する皇太子の計略によって船を転覆させられ、救援を請うも空しく水死した。

遺骸は考羅濟(かわらのわたり。現在の京都府京田辺市河原)で見つかり、那羅山に葬られたという(那羅山墓)。

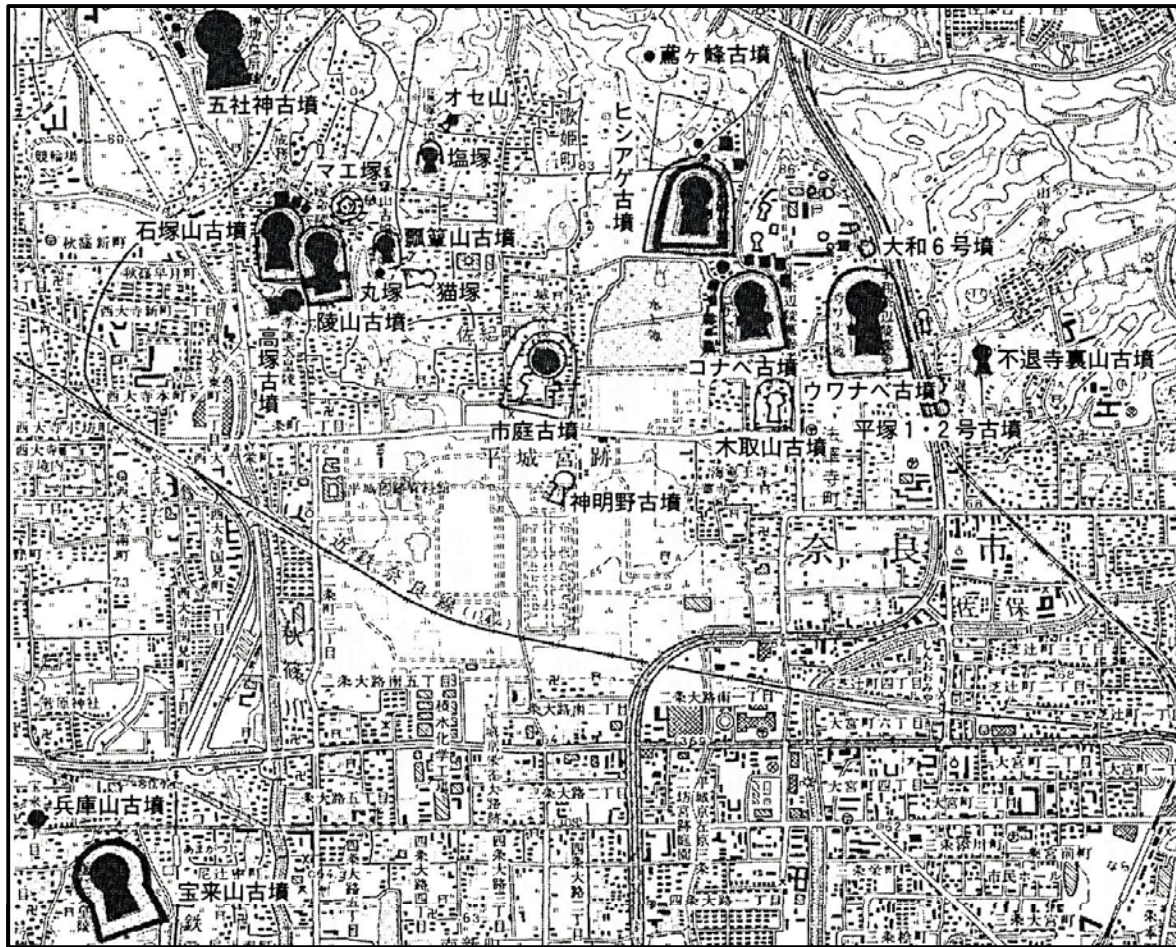
残った、大鷦鷯尊と菟道稚郎子は世継ぎを譲り合っているうちに、菟道稚郎子は亡くなり大鷦鷯尊が後を継いだ。これが仁徳天皇である。

那羅山墓は直径約10mの円墳ということなのですが、拝所の向こう側は灌木で覆われ全体を把握することができません。

●佐紀盾列古墳群

奈良盆地北部に展開する佐紀盾列(たたなみ)古墳群は、奈良盆地東南部の大和古墳群、大阪平野の古市古墳群、百舌鳥古墳群と並ぶ大古墳群である。古墳時代前期後葉(4世紀後半～5世紀初)の五社神(ごさし)古墳にはじまり、佐紀陵山古墳、佐紀石塚山古墳、市庭古墳、ヒシアゲ古墳、コナベ古墳、ウワナベ古墳と、前期(3世紀後半～4世紀初め頃)から中期(4世紀末～5世紀)にかけて造営された全長200m以上の巨大前方後円墳に加え、これらに随伴する陪塚(ばいちょう)群、そのほかの中・大型前方後円墳で構成される。巨大古墳のすべてと一部の陪塚、大型前方後円墳が陵墓もしくは陵墓参考地として宮内庁の管理を受けている

・佐紀盾列古墳群地図



●ウワナベ古墳 宮内庁陵墓参考地

ウワナベ古墳は佐紀盾列古墳群の中でも最も東の端に位置している。しかし、陵墓参考地に指定されているため、ほとんど何も分かっていない。墳丘は前方後円墳、全長260m、後円部径130m、前方部幅130m。前方部を南に向ける。3段築成。県内で5番目、全国でも13番目の大きさを誇る巨大古墳です。円筒埴輪、葺石の存在が確認されている。

1969年の調査で周濠の外堤の外に幅10mの外壕が発見されており、当初二重壕であったことが確認されている。

左側くびれ部に造出し部を持ち、周囲に幅の広い濠を巡らしている。

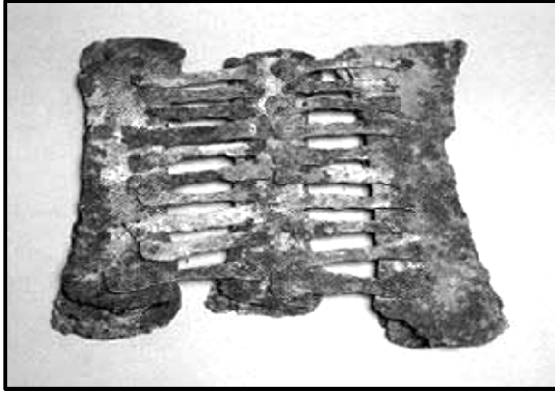
かって東側に1基、北部に6基の陪塚があった。

発掘調査は外堤のみ部分的に調査されている。

築造時期は5世紀中葉と考えられている。被葬者は不明。

大和6号墳という陪塚からは貴重な鉄製品が多量に発見された。中でも鉄鋌は872点にも及んだ。大形品は長さ30～40cm、小形品は長さ16cm前後です。鉄鋌は主として武器・武具など鉄製品の素材として朝鮮半島から輸入(移入)したものです。近年の発掘調査で伽耶(かや)地域(朝鮮半島南部)の古墳からたくさん出土し、鉄の王国と呼ばれた伽耶からもたらされた可能性が強い。素材である鉄鋌そのものが副葬されたのは、それ自体が富の象徴、ひいては権威の象徴と考えられたからとおもわれます。

・大和6号墳から出土した鉄鋌



・ウワナベ古墳測量図



・外堤から出土した鱗付円筒埴輪



●コナベ古墳 宮内庁陵墓参考地

墳丘の長さは204mであり、全国でも31位の規模を有する大型の前方後円墳である。後円部の径が125m・高さ20m、前方部は幅129m・高さ17.5mであり、前方部はほぼ南の方向を向いている。

コナベ古墳は、盾形の周濠をともない、三段築成のそれぞれの段に円筒埴輪列があることを確認している。左右のくびれ部にはそれぞれ台形様の造出しをともない、葺石の存在も確認されている。葺石は上層に人頭大、下層に握り拳大の礫石が使用されている。

明治初年に大阪の造幣局技師として日本に招かれたイギリス人ウィリアム・ゴードランドの実測図によって海外に紹介されています。

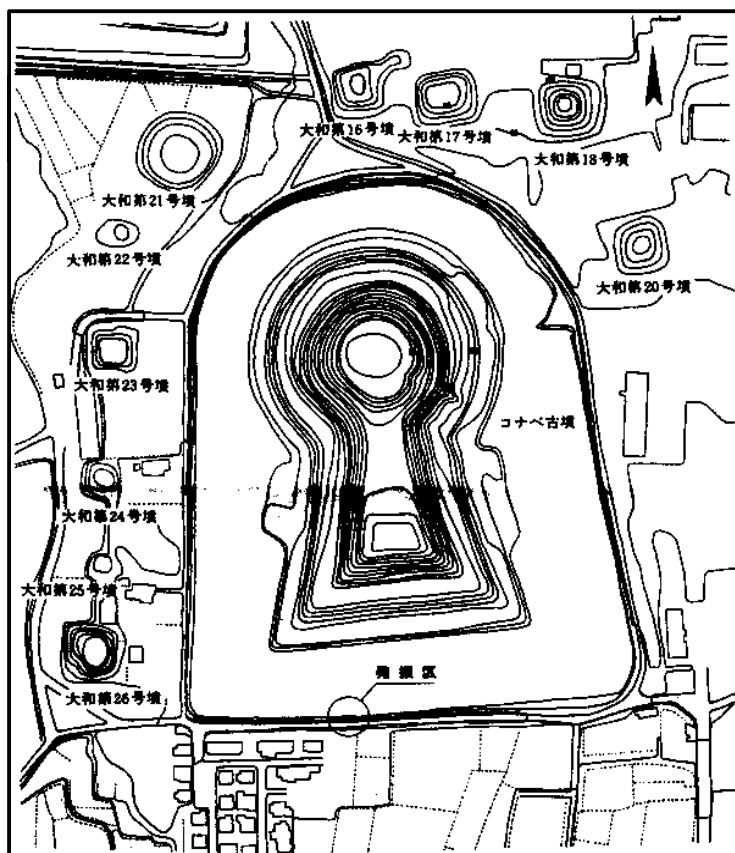
被葬者は不明である。

昭和54年(1979)、奈良市教育委員会が前方部南側の外堤護岸工事のための発掘調査を実施しており、0.5m間隔で並ぶ円筒埴輪列が発見されています。

平成9年(1997)の奈良県立橿原考古学研究所による発掘調査では、外堤部でやはり埴輪列を検出し、その東側では外周溝も確認している。外周溝のなかからは、三角板革綴短甲の破片や鉄鏃が出土しています。

コナベ古墳の前方部の西側から後円部北東にかけては、10基の陪塚が並んでいます。

・コナベ古墳測量図



・三角板革綴短甲



(福岡市老司古墳
第2号石室出土)

●ヒシアゲ古墳 宮内庁管理・仁徳天皇皇后磐之媛命平城坂上陵

墳丘は全長219m、後円部径124m、高さ16.2m、前方部幅145m、高さ13.6m
前方部を南に向ける。埴輪、葺石あり。3段築成です。

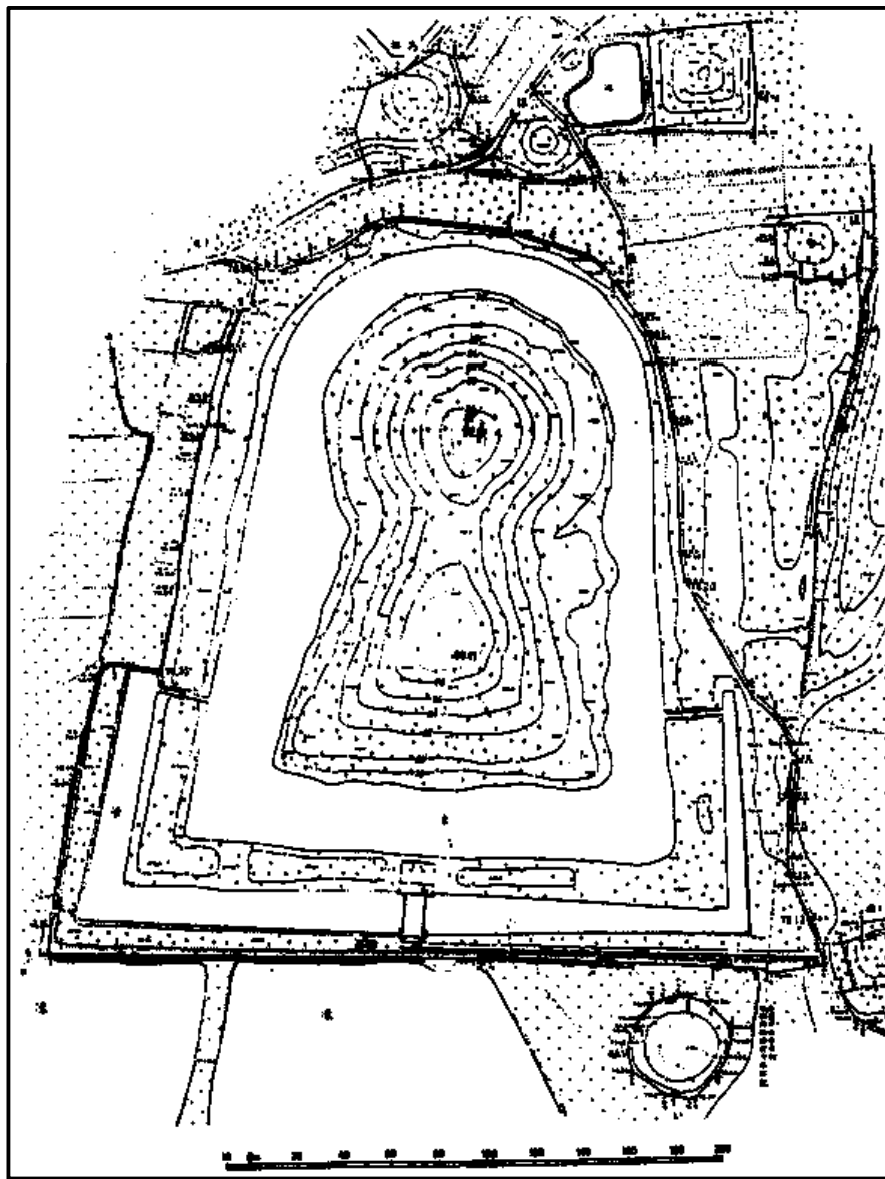
東部くびれ部には造出がみとめられる。2重周濠は現状前方部正面のみ、
水を湛えた周濠が存在するが地形図を見る限り後円部まで廻っていたと思われ
れます。

陪塚が県下では一番多く10基あったが内3基は残念なことに戦後すぐに壊
されました。築造年代は5世紀後半といわれています。

・仁徳天皇皇后磐之媛命

『日本書紀』によれば仁徳天皇が八田若郎女を寵愛したため磐之媛命の怒
りが解けず難波宮に戻らなかったため皇后陵も奈良にあるといいます。

・ヒシアゲ古墳測量図



平城天皇は宮内庁は市庭古墳をこの天皇の陵墓に治定している。ということは、新たに陵墓を築くことなく、誰が埋葬されていたかも分からないで放置されていた古墳を、再利用して葬られたことになる。

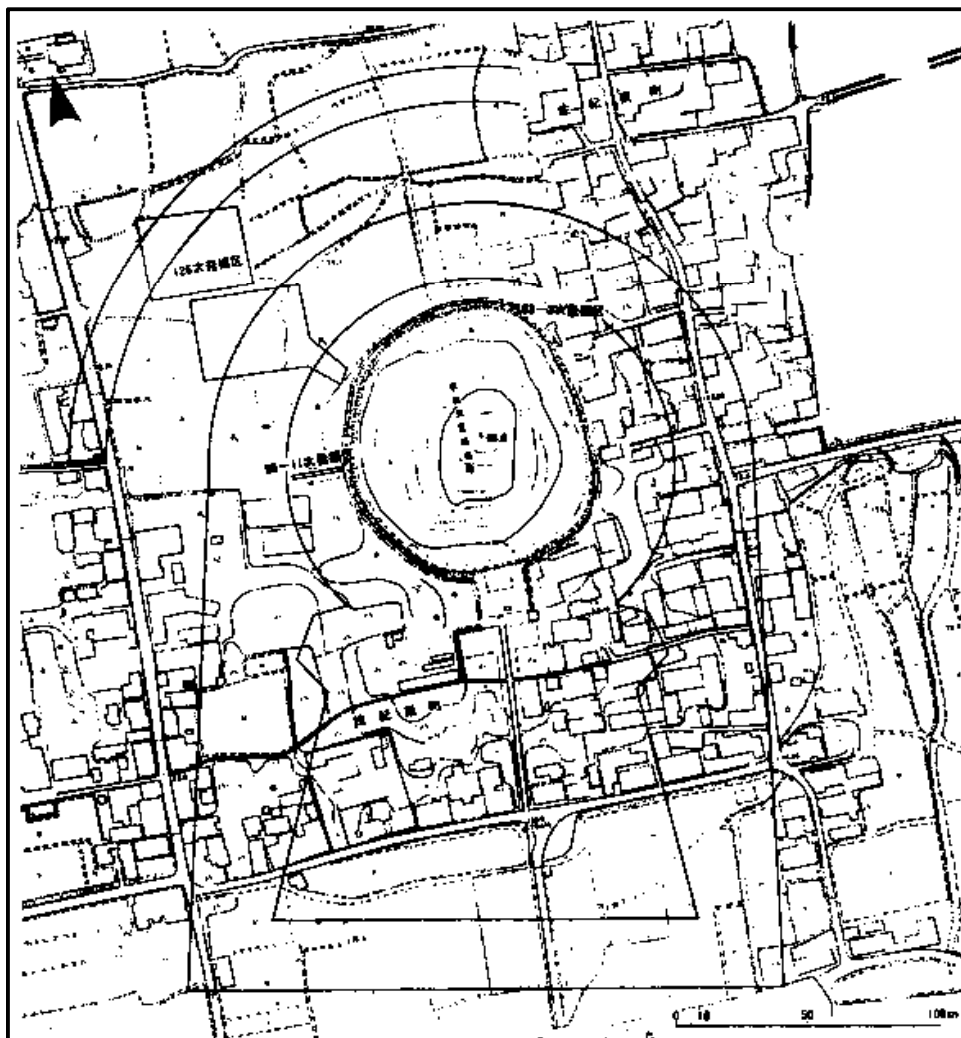
この第51代平城天皇は桓武天皇の第一皇子である。

天皇時代は長岡京遷都の翌年の延暦4年(785)種継暗殺事件に関与したとして皇太子を廃された叔父の早良親王に代わって皇太子となったため、早良親王の怨霊による祟りとされ病弱であった。また皇后の母の藤原薬子を寵愛し醜聞を招く。

病弱によって同母弟である嵯峨天皇に譲位した後し上皇となったが、嵯峨天皇と対立して、二所朝廷と呼ばれる状態になった。重祚を企て、平安京を廃して平城京へ遷都する詔勅を出すなど対立が深まり大同5年(810)薬子の変が起きたが失敗、仏門に入った。

平城天皇は、在原業平の祖父である。その晩年は、不退寺の寺地に「萱の御所」という邸宅を築いて住んだ。(1ページ参照)

・市庭古墳測量図



●式内社・佐紀神社

社伝によると、天武天皇二年(673)の創祀。御前池の東にあり、西にも同名の神社がありますが、西側の神社は分祀したものです。

平城天皇の御代、皇太子であった高岳親王は、弘仁元年(810)薬子の乱で、皇太子を辞して出家し、東大寺で三論を、東寺で空海(弘法大師)から、真言密教を学ばれた、真如上人と号されて、父君の平城天皇の楊梅の宮を改めて寺とされたのが超昇寺だという。この超昇寺の建立と同時に、鎮守社として祀られたといえます。

祭神は天兒屋根命、経津主命、六御県命。

天兒屋根命は天孫降臨の際瓊瓊杵尊に随伴し、中臣連などの祖となった。経津主命は葦原中国平定では武甕槌神とともに出雲へ天降り、大国主命と国譲りの交渉をした。『日本書紀』のみに登場する神。

六御県は添(そふ)、山辺、磯城、十市)、高市(たけち)、葛城の六つの県(あがた)のこと。

●釣殿神社

創建は平安時代頃、式内佐紀神社(奈良市佐紀町字亀畑)の末社・市杵島姫神社として、創建されました。当時の御祭神は市杵島姫命。

室町時代、戦国時代と、戦火に遭い消失。江戸時代初頭に、市杵島姫神社が再建とともに、佐紀神社の祭神の六御県命、経津主命の2神を「釣殿神」として合祀し、天兒屋根命をも合祀。市杵島姫命と合わせ、3柱を祭神としています。

釣殿とは寝殿造の邸宅において、中門廊の先端に、池に臨んでつくられた建物。周囲を吹放ちにした瀟洒なもので、納涼・供宴に用いられた。池に釣り下ろしたような建物であるため、この名があるという。

・平城京東院庭園・釣殿



●陵山古墳 宮内庁管理・日葉酢媛命狭木之寺間陵

第11代垂仁天皇皇后日葉酢媛命の陵墓に治定されている。

全長207mの大型の前方後円墳、後円部径131m、後円部高20m、前方部幅87m、前方部高12.3mで三段に築成された古墳である。

古墳時代・前期4世紀後半～5世紀前半の築造。

すぐに西側に接して築かれている石塚山古墳のくびれ部に陵山古墳の後円部がくい込んだ配置になっている。このため石塚山古墳の周濠は極端に狭くなっており、佐紀陵山古墳の方が先に築かれたことが推定されている。

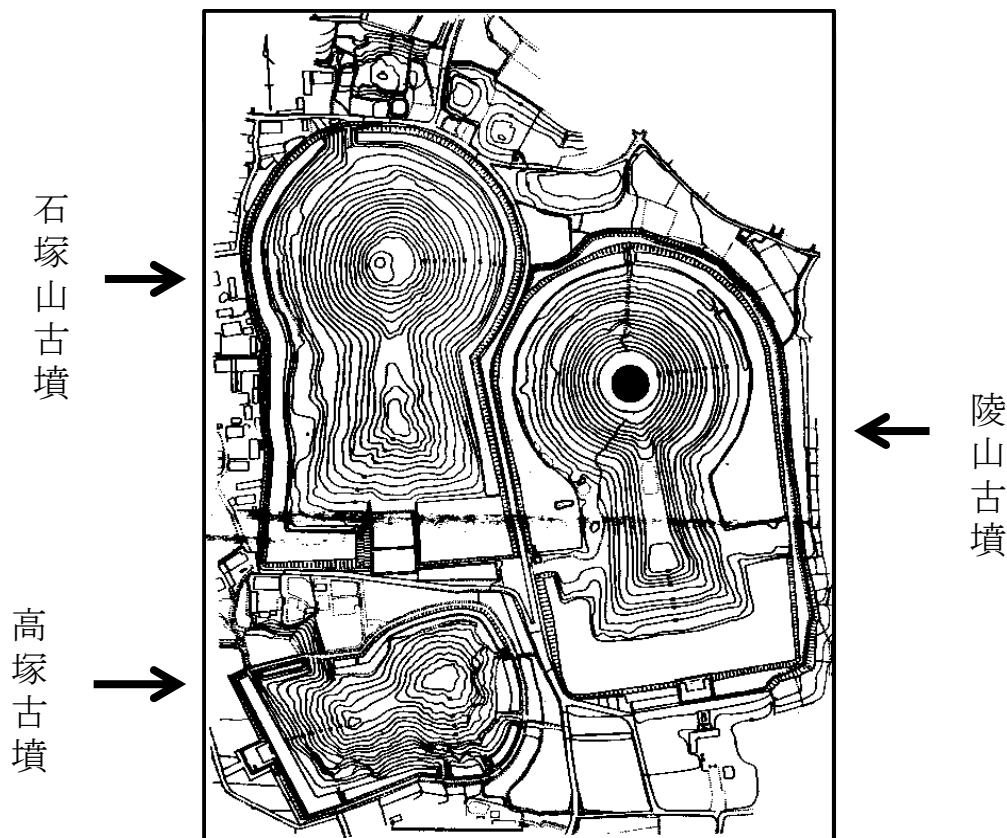
大正4年(1915)に大がかりな盗掘をうけ、遺物が持ち出された。この事件はそののち犯人が検挙され、出土遺物は回収されている。翌年に宮内省により、復旧工事が行なわれ、それに伴い、陵墓という性格から大きな制約があったと推察されるものの、石室付近と出土遺物に関するかなり詳細な調査と記録の作成がなされた。

殉死のかわりに初めて埴輪を御陵に立てたという説話が『日本書紀』に記されているのがこの古墳ではないかとされている。

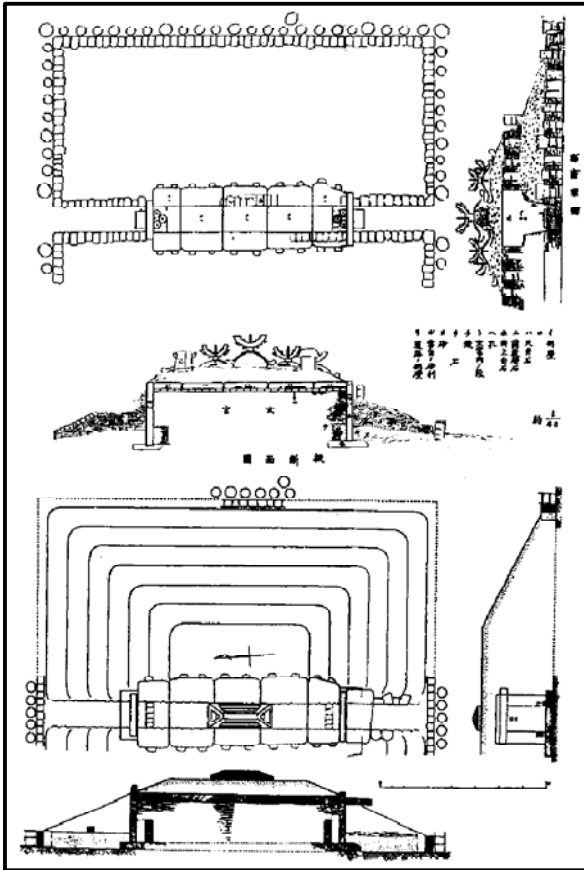
竪穴式石室は、主軸をほぼ南北に持ち、長さ8.55m、幅1.09mという巨大なものである。

石室上部は2mほどに土を盛って小さな円形の盛土を造り、その上に7～8個のキヌガサ形埴輪と数個の盾形埴輪を立てていた。土壇中央の最高所に立てられたキヌガサ形埴輪は大きく(高さ1.5m、横幅2m)東京国立博物館にある。

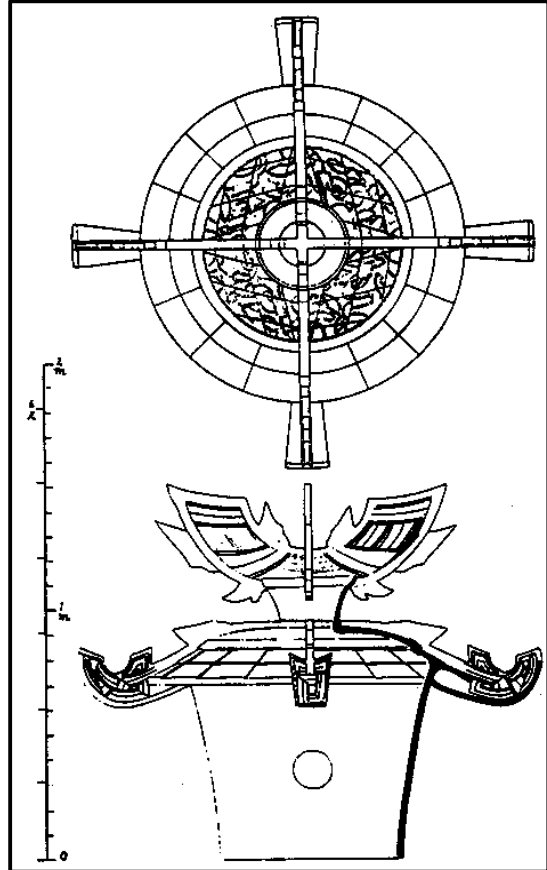
・陵山古墳・石塚山古墳・高塚古墳測量図



・陵山古墳 竪穴式石室



・陵山古墳 キヌガサ形埴輪



●石塚山古墳 宮内庁管理・成務天皇狭城盾列池後

石塚山古墳は第13代成務天皇陵に治定されている。

墳丘は南面している。全長218.5m、後円部の径132m、高さ19m、前方部は幅121m、高さ16m規模である。墳丘は三段に築成され、葺石が多用されているために石塚山古墳の名がある。

前方部の前面をのぞいて、周濠の幅は全体に狭いが、ことに東側では極端に狭く、陵山古墳(日葉酢媛命陵)の後円部の周濠が当古墳のくびれ部にくいこんだ状況である。

周濠外には、北から東北にかけて3基の陪塚がある。

4世紀後半～5世紀前半の築造。

平安時代と江戸時代の記録によると、後円部に竪穴式石室と長持形の石棺があることが推定される。また鏡、玉、剣などが盗掘されたいが、詳細については不明である。

●高塚古墳 宮内庁管理・称徳(孝謙)天皇高野陵

高塚古墳は第48代称徳(第46代孝謙)天皇陵に治定されている。

全長127m、後円部径84m、高さ18m、前方部幅70m、高さ約13mの3段築成、前方部を西に向けた前方後円墳。

称徳(孝謙)天皇が崩御時の八世紀に前方後円墳はもう造営されておらず明らかにおかしい。

この古墳の築造は古墳時代中期の5世紀前半の可能性が高い。

江戸時代末期の文久2年(1862年)の修復で以前、高塚と呼ばれていたこの古墳を修復し治定したものである。

孝謙天皇は聖武天皇と光明皇后の間に生まれた、阿倍内親王で、女性皇太子となり、天平勝宝元年(749)に父・聖武天皇の譲位により即位された。

天平宝字2年(758)に孝謙天皇は病気であった光明皇太后に仕えるためとして退位し、皇太子大炊王(淳仁天皇)に譲位した。

天平宝字4年(760)に光明皇太后が崩御すると、孝謙と仲麻呂(藤原恵美押勝)・淳仁の関係は微妙なものとなった。病に伏せった孝謙上皇は、看病に当たった弓削氏の僧・道鏡を寵愛するようになった。

天平宝字7年(763)から天平宝字8年(764)には道鏡や吉備真備といった孝謙派が要職に就く一方で、仲麻呂の子達が軍事的要職に就くなど、孝謙と淳仁・仲麻呂の勢力争いが続いた。

天平宝字8年(764)藤原仲麻呂の乱で仲麻呂は敗死する。

淳仁の廃位によって孝謙は復帰し、重祚した。第48代称徳天皇である。

道鏡による政権運営が6年間にわたって続くが、ついには、「道鏡が皇位に就くべし」との宇佐八幡宮の託宣もあったが、道鏡は清麻呂を改名し左遷し、さらに大隅国へ配流された。

神護景雲4年(770)平城宮西宮寝殿で崩御した。

●五社神(ごさし)古墳 宮内庁管理・神功皇后狭城楯列池上陵

五社神古墳は神功皇后陵に治定されている。

全長約275m・後円部径約195m、後円部高さ23m、前方部幅155m、前方部高27mの前方後円墳である。、全国11位の規模です。

葺石あり。周濠は北側が空濠で他の3方は水をたたえ周濠は渡り堤で区切られ東側は灌漑用の溜池に改変されている

埋葬施設は幕末の嘉永3年(1850)の盗掘記録で長持型石棺があるらしい。出土遺物は鱗付円筒埴輪、形象埴輪がある。

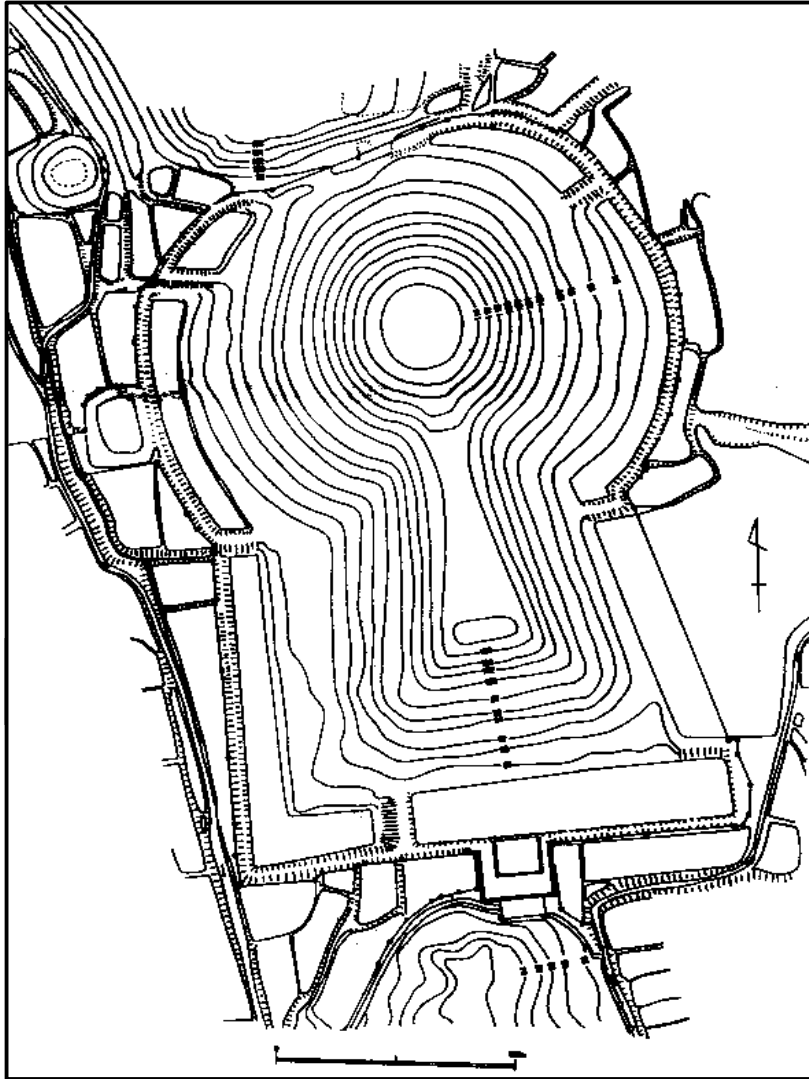
佐紀古墳群では最大規模を誇る古墳であり、これまで4世紀中頃の築造で佐紀古墳群でも一番古い古墳と言われてきたが埴輪や土器類から築造時期は5世紀初めの可能性が近年、指摘されている。

平成20年(2008)陵墓としてはじめて研究者16名による立入調査が認められたが、調査は当日の数時間のみで場所も1段目のテラス部分のみでした。

神功皇后は『日本書紀』などによれば、201年～269年まで政事を執り行なった。夫の第14代仲哀天皇の急死(200年)後、住吉大神の神託により、お腹に子供(のちの応神天皇)を妊娠したまま海を渡って朝鮮半島に出兵して新羅の国を攻めた。新羅は戦わずして降服して朝貢を誓い、高句麗・百済も朝貢を約したという(三韓征伐)。

『日本書紀』神功紀66年に、中国武帝の泰初2年(266)に倭の女王が貢献したときされて中国文献の引用がされている。
江戸時代までは、卑弥呼が神功皇后であると考えられていたが、266年では卑弥呼はすでに死去しており、『日本書紀』の倭の女王は台与の可能性が高いとされている。

・五社神(ごさし)古墳測量図



●参考文献

- ・てくてくまっぷ 歴史の道 ウワナベ古墳・秋篠寺コースパンフ
- ・日本書紀全2巻 宇治谷孟 昭和63年 講談社学術文庫 (株)講談社
- ・古事記全3巻 次田真幸 1994年 講談社学術文庫 (株)講談社
- ・奈良時代MAP平城京編 太田治 平成19年 (株)新創社
- ・総合資料日本史 浜島書店編集部 1992年 (株)浜島書店